

売上の減少は深刻。近年まれに見る景況の悪化

12月の情報連絡員報告によると、対前年比の景気動向は製造業、非製造業とも大幅に悪化しており、売上高・収益状況ともDI値がマイナス80台に達した。消費が著しく減退していることが如実に現れている。

情報連絡員の報告は、年末商戦の不振、不良在庫の増加、資金繰りの悪化、倒産企業の発生など、深刻な状況を伝える内容で占められている。

【製造業64人、非製造業86人、計150人の集計】

各項目のDIの動き（前年同月比）

	全 体	製 造 業	非製造業
売上高	😞	😞	😞
在庫数量	😞	😊	😞
販売価格	😞	😞	😞
取引条件	😞	😞	😞
収益状況	😞	😞	😞
資金繰り	😞	😞	😞
設備操業度	😞	😞	—
雇用人員	😞	😞	😞
業界の景況	😞	😞	😞

😊 …増加、上昇、好転

😊 …不変

😞 …減少、低下、悪化

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	製 粉 業	穀物相場や為替の変動を販売価格に反映させることは困難。政府の輸入麦売り渡しルールの見直しの動きには反対する。
鉄鋼・金属	建築金物製造業	住宅取得減税の実施をお願いしたい。
	鍍金加工業	悲鳴を上げている中小企業の危機的状況を感じ取ってほしい。
	電線製造業	需要喚起策を望む。
	ダイカスト製品製造業	内需拡大策の実施を望む。
繊維・同製品	ネクタイ製造業	業界として手をこまねくわけにもいかず、クールビズの流れに伴うノーネクタイ化に歯止めをかけるため、国会議員14人に陳情した。
印 刷	印 刷 業	緊急保証制度は申し込みが殺到して希望する時期に実行できない状況であるとのこと。運営面で万全を期してほしい。
卸 売	電気設備資材卸売業	温暖化・省エネ対策に効果のあるオール電化（太陽光発電を含む。）普及に対する助成の拡充を望む。
サ ー ビ ス	廃棄物処理業	廃棄物法の欠格要件修正のため、環境大臣宛の請願署名を実施中。
建 設	建築工事業	緊急融資制度についての金融機関の対応が鈍い。施策の金融機関への浸透が望まれる。

平成20年
12月

業 界 の 声

製 造 業

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	麺類製造業	小麦粉価格の上昇に見合う価格転嫁ができない。
	中華麺製造業	原材料価格は高止まり。販売数量は減少。一回の取引量が減少する一方、回数が増えたため、配送コストが増大している。
繊維・同製品	ネクタイ製造業	12月は前年比85%。7月以降、大きく売上が減少している。
	帽子製造業	クリスマス商戦は苦戦を覚悟していたが、ニット帽子、ファー帽子などが善戦、ハンティングの売上げも好調であった。
	織物製造業	直近2、3ヶ月が厳しく落ち込んだことに比べ、年末はやや持ち直したが、前年比では売上減少となった。
	ニット製品製造業	売上が低迷する中、金融機関の貸し渋りも加わり、厳しい状況が続いている。
	洋服製造業	12月に季節物の受注が入ったが、全体的に市況悪化のため減産。採算が取れず廃業する組合員が発生した。
木材・木製品	建具製造業	市場が縮小し、価格競争の激化に拍車をかけている。
印 刷	光沢加工業	受注が激減している。景況動向は全てにおいて落ち込んでる。
化学ゴム	塗料製造業	売上は前年比20%減。原油価格の下落がすぐに塗料原料の引き下げにつながらず、収益状況は厳しい。
	プラスチック製品製造業	売上減少が大きく、先の見通しがたたないため、不安感が増大している。
	ゴム製品製造業	受注の減少により年末休業日数が増加している。年明け以降の受注量も激減する模様。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	都心の協同組合が12月1日より資材高騰分の価格転嫁を行ったが、先行きは不透明である。
	コンクリート製品製造業	道路用コンクリート製品の需要が大きく減少し、業界は極めて厳しい状況にある。同時に資金繰りも困難である。 販売価格は若干上昇しているが、大手ゼネコン・道路整備業者の業績は振るわず、売上高は減少。与信管理も十分に働かない中で、厳しい年末となった。
鉄鋼・金属	電線製造業	12月の需要動向は、通信、電力、電気機械、建設用の全ての分野で悪化した。需要の減少と値引き要請の二重苦となっている。
	鋳物製造業	11月以降急激な受注の減少が続く一方、一部原材料価格の下落に伴い値引き要請がはじまっており、経営を圧迫している。
	鍍金加工業	受注減少は危機的であり、前年比40%強減少している。受注の減少は限界に達し、経営努力の範囲を超えており、あきらめのムードが漂っている。
	金属熱処理業	秋以降、組合員企業の操業度が極端に低下した。自動車部品中心の企業は対前年比約50%減少。それ以外の企業も20~30%程度減少している。かかる状況では採算割れを起こしているのは明白である。
	建築金物製造業	マンション不況の影響で売上は大幅に減少。
	ダイカスト製品製造業	受注量が60%減少という企業も発生している。
電気機器	配電盤製造業	受注量は減少しているが、春頃までの仕事は確保している。しかし、その先の受注見通しがたたない。現状では資金繰りの問題はないものの、先行きが懸念される。
輸送用機器	自動車部品製造業	10月期に比べ、12月期売上は30%減。12月に1日臨時休業。1月は8日間臨時休業を行う予定。
一般機械	木工機械製造業	12月始めより急激に売上が減少した。
	写真製版機材製造業	現在までの仕事量は昨年と変わらないが原材料価格の高騰分を転嫁できなかったため、利益は減少した。
その他の製造業	スポーツ用品製造業	売上の低迷が続く。メーカー、卸、小売りの業界全体で需要喚起に取組む必要がある。
	ガス圧接業	稼働率は徐々に下降してきたが、ここに至って仕事が急激に減少している。年末に向けて資金繰りに影響が出ており、先行きが不安である。

平成20年
12月

業 界 の 声

非 製 造 業

集計上の 分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	食器卸売業	年末年始向けのまとめ購入も見られず、近年見られないほど売上は落ち込んだ。
	化粧品卸売業	セーフティ保証制度の指定業種に化粧品卸売業が追加された。心強い限りであるが、業況は益々厳しくなっている。
	電線卸売業	銅価がこの3ヶ月で30%下落し、同様にケーブル価格も約30%落ちた。各社少なからず在庫を抱えている。
	伸銅品卸売業	需要が冷え込んでいる為、適正な在庫ですら重荷になっている。
	セメント建材卸売業	共同購買事業の12月実績は対前年比79.6%。12月中の廃業組合員は3社。
	電器製品卸売業	売上高が前年比20～30%の減少。
	木材卸売業	荷動きが鈍いうえに、回復の兆しが見えない。
	紙卸売業	前年比で売上高は80%、数量では70%減少した。
	玩具卸売業	期待されたクリスマス商戦は、前年比70～80%と惨敗であった。
	電気設備資材卸売業	デベロッパ、ゼネコンの破綻が増加したため信用不安が深刻になっている。
小 売	ニット製品卸売業	冬季を迎え、業況には一部改善が見られるが、前年比では大幅に悪化している。
	包装材料小売業	大量に在庫を抱えており、デッドストックになる可能性がある。赤字覚悟で処分せざるを得ない恐れがある。
	青果小売業	売上は低下している。各組合員は生産者情報の開示や限定農園の生産物など、安心・安全をPRできる高付加価値品を取り扱うことで、利益増大につながるよう努力している。 今年ではミカン生産が裏年（収穫量が少ない年）であるため入荷量が減少し、高値となった。販売が伸びず、売上に影響した。
	豆腐小売業	11、12月それぞれ10件の組合員の廃業があった。組合員が高齢化しているため今後も廃業の増加傾向は続くと思われる。
	古書籍小売業	古書籍業界は景気にさほど左右されないとされてきたが、売上低下は著しい。
	自転車小売業	年末商戦も芳しくなかった。材料価格の高騰に伴い、商品価格も上昇した。
	宝飾品小売業	12月商戦という状況になく、かつて経験したことのない厳しい商況である。
	電器製品小売業	液晶テレビは32インチ以下では利益が出ない。固定客がいるため大幅な売上の減少には至っていないが、12月20日頃より急激に客足が落ち込み始めた。
	衣料品小売業	11月は冬物需要を先取りしたため、12月の売上は低迷した。
	鮮魚小売業	マスコミで報道されるほど年末商戦は厳しくなく、前年並みの売上があった。
	木材小売業	リフォーム関連需要が主流となっているが、仕事量は大きく減少している。
	眼鏡小売業	売上数量の減少と顧客の低価格志向により収益は一段と悪化している。
	塗料小売業	11月中旬以降、工業用分野向けの売上が減少。原材料価格高騰時にメーカーが実施した値上げ分の価格転嫁が進まないにもかかわらず、ユーザーからは原油価格の下落状況を踏まえた値下げ要請が始まっている。
ペット小売業	「マイクロチップによる動物登録」の制度普及とともに鳥インフルエンザの予防活動を業界として実施している。	
商店街	銀 座	人出の割に売上が伸びない。廉価品が動いている。
	秋 葉 原	牽引役のデジタル関連（テレビ・DVD）が伸び悩んだ。小型暖房器具の動きは良いが、高額な暖房器具は振るわず、照明関連も前年に届かなかった。

サービス	自動車整備業	車検整備が減少。来年、さらに悪化することが懸念される。
	廃棄物処理業	廃棄物量が減少している。（廃棄物量は景気の指標になると言われる）再資源物価格が暴落（鉄屑、古紙等）しているほか、処理価格の引き下げ要請が懸念される。
	飲食業	外食の売上は最悪の状況である。
	複写業	自動車産業をはじめ、IT、建設、ハイテク関連等、複写業の得意先が低調であるため、売上高、価格とも減少している。組合員数の減少にも歯止めがかからない。
運送	貨物自動車運送業	車両の稼働率は前年比で10%以上落ち込んでいる。幸い当組合においては倒産企業は発生していないが、業界では急増している模様。
	港湾運送業	国際貨物、国内貨物とも扱量は低迷している。
建設	建築工事業	上場企業の倒産は、下請けに大きな影響を与えている。今後さらなる状況の悪化が予想され、組合員への影響は避けられない。又、代金の回収にも大きな不安がある。
	管工事業	建設業者の倒産による債権の焦げつきが発生している。